にほん勤労協ネットワーク　No.１３７ 2017年８月３１日発行
日本勤労者協議会連合会
☎・ＦＡＸ 054-273-5130
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ http://www.kinrokyo.net/
＜第２８回全国総会報告特集号＞ｅﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ nihon@kinrokyo.net

166名が参加して第28回全国総会開く

第２８回静岡全国総会で
新たな勤労協運動の構築を確認

日本勤労協連合会第２８回全国総会は６月２５～２６日、静岡県伊豆の国市「ホテルサンバレー富士見」に於いて全国各地より２０県　　１６６名の参加を得て盛大に開催することができました。

藤田副会長の開会の挨拶により進行を進め、議長団には地元静岡県連・秋山一氏、次期開催県の香川県連・田辺和司氏を選出。

高崎新・日本勤労協会長からは「私たちが目指す社会は『参加・自治・分権・自然と共生』する地域社会です。そのためには健全な住民運動が不可欠です。そこに、住民運動を理念とする勤労協運動の存在意義もあります。

この全国総会では、これまでの運動の総括を踏まえて討論し、新たな勤労協の運動論を導き出してください。そして、それぞれの居住地に帰って地域住民と連帯し、各地の運動に活かしていきましょう」と訴えました。

続いて、地元静岡県連・堀内会長から歓迎の挨拶と、来賓の方々からの挨拶をいただき、祝電披露を行いました。

運動方針提案では、橋本勝六事務局長からこの２年間の経過報告及び、第１号議案（日本勤労協が統一して取組む運動課題）（2017～18年度の具体的組織運営）の提案、第２号議案日本勤労協の１７～１８年度財政方針、それぞれ３つの分散会で論議を深めることとし、決算報告と予算案及び

第３号議案物資販売事業計画については小委員会で審議することとしました。

◆石川県連・福島県連・熊本県連より３つの特別報告

その後、運動の交流を深めるため３つの特別報告がおこなわれました。それぞれの活動の経験が報告され大変意義ある特別報告でした。（議案書Ｐ．３０～３５参照）

①　「まちづくりと勤労協運動」
藤田利男・石川県勤労協
②「福島第１原発から６年、現地で抱える問題」
藤岡郁夫・福島県勤労協
③「熊本大震災から学ぶべき課題」
矢野俊雄・熊本県勤労協

（来賓）
☆渡辺　加絵　静岡県経済産業部就業支援局　労働政策課長
☆小野　登志子　伊豆の国市　市長
☆吉田　正和　（一社）全国労働金庫協会　副理事長
（祝電）
☆中江　公人　（一社）全国労働金庫協会　理事長
（メッセージ）
☆社会民主党　党首　吉田　忠智
☆静岡県議会ふじのくに県民クラブ　会長　岡本譲
☆民進党静岡県総支部連合会　会長　榛葉　賀津也
☆社会民主党　静岡県連合　☆静岡県平和・国民運動センター
☆憲法擁護静岡県民連合　☆しずおか憲法９条を擁護し実現する会
☆原水爆禁止静岡県民会議　☆日朝友好静岡県民会議

◆夕食・懇親交流会は地元伊豆の国市勤労協の計らいで、しゃぎり（お囃子）保存会によるアトラクションが披露され、力強いお囃子の演奏で盛り上がりました。

◆懇親交流会は静岡県連・福井事務局長の司会と日本勤労協会長の乾杯の音頭で始まりました。

会場には静岡県連の企画により、日本各地の地酒、銘酒が振舞われ大好評でした。遠くから、地酒をお持ちいただいた皆様、ありがとうございました。

懇親会の盛り上がりの中で、各県連の自己紹介と今後の活動への決意表明が行われました。

☆総会２日目は３つの分散会が開催され、各地区の活動報告や課題などが活発に報告されました。

全体集会では、橋本事務局長より財政方針小委員会の報告を受け、第１号議案、運動方針案、第２号議案決算報告・財政方針案、第３号議案物資販売事業計画案を満場一致承認決定しました。

２０１７～１８年度役員改選については、九州ブロック福岡県連の高崎新会長に替って、宮城県連・宇津井賢一氏が、また会期途中で栃木県連・菅谷文利氏から交代した関東甲信越ブロック長野県連の清水可晴氏には続けて事務局次長を、また新たに幹事と

して九州ブロック熊本県連の矢野俊雄氏を選出、各人とも承認されました。

高崎新会長には、これまで日本勤労協の活動を支えていただいたことに感謝申し上げます。

☆　「次期第２９回全国総会は中国四国ブロック・香川県連で・・・」

総会の最終は総会アピールを採択、次期全国総会を受持つ香川県連の篠原幹事からは２０１９年総会に熱烈歓迎の挨拶を頂きました。

最後に宇津井会長の「団結ガンバロー」を三唱し、日程を終了しました。

☆ブロック・県連別参加者内訳

◆東北３０（宮城１６　山形５　福島８　岩手１）

◆関東甲信越３５（長野２０　群馬７　新潟４　神奈川１　栃木３）

◆東海北陸８２（福井８　富山４　静岡５０　石川２０）

◆中・四国７（香川７）

◆九州１２（熊本４　佐賀１　福岡２　長崎２　大分２　鹿児島１）

☆　日本勤労者協議会連合会１７～１８度役員体制　☆

会　　長	宇津井　賢　一	（東北ブロック、宮城県連）	新
副 会 長	藤　田　利　男	（東海・北陸ブロック、石川県連）	再
事務局長	橋　本　勝　六	（東海・北陸ブロック、静岡県連）	再
事務局次長	清　水　可　晴	（関東甲信越ブロック、長野県連）	再
幹　　事	篠　　原　　清	（中・四国ブロック、香川県連）	再
幹　　事	矢　野　俊　雄	（九州ブロック、熊本県連）	新
会計監査	宮　下　正　一	（東海・北陸ブロック、福井県連）	再
会計監査	八　巻　利　行	（東北ブロック、福島県連）	再

全国総会アピール

日本勤労協第２８回全国総会は全国各地より１７０名が結集し６月２５～２６日静岡県伊豆長岡温泉において成功裡開催されました。

私たち国民が暮らしの中で極めて重要な平和が危機にさらされた中での総会となりました。安倍反動内閣は日本の平和と世界の平和に貢献してきた日本国憲法を２０２０年目途に改悪すると公言しました。

すでに日本国憲法は安倍内閣の下で特定秘密保護法や新安保法制により集団的自衛権の発動などで「骨抜き」にされています。更に、２１世紀の治安維持法と言われるテロ等準備罪法（共謀罪）が異例の参議院委員会採決なしで本会議強行採決されました。今後も粘り強く廃案を求めていかなければなりません。

そしていよいよ安倍政権の本丸である憲法改正について、憲法前文や９条の明文改悪に着手しようとしています。

安倍政権の進める経済政策は、非正規労働者の拡大と高齢者への年金カットなど格差と貧困が拡大しています。また、原発再稼動推進、沖縄辺野古新基地建設強行など社会的矛盾が蔓延してきています。

私たち日本勤労協に結集する全国の仲間は、地域での仲間づくりや世話役活動を通じて、住みやすく住んで良かった地域の活動により平和を愛する多くの人々との連帯の輪を全国に創ってきました。

第 28 回全国総会では特色ある「先進的な活動」や「私達にも出来るかなとも思える」活動などが多く紹介されました。勤労協は歴史や成り立ちも違う組織です。活動領域は極めて幅広く活動基盤も千差万別の中での諸活動です。しかし活動に共通の理念があります、それは「ふれあい・たすけあい・まちづくり」と「公正・共生・連帯」です。平和を愛し、格差是正・環境保全運動などを通じて共に助け合い連帯の輪を拡大することです。実現可能なことを見つける努力が求められています。背伸びをせずに肩の力を抜いての挑戦が求

められています。

現在の社会的風潮はスマートホン、パソコンやゲーム機の浸透で「組織」を好まない傾向が強くなっています。仲間つくりや組織つくり、組織の維持は大変困難な時代ですが、この社会の反動化を地域から止める為にも勤労協のような組織が全国各所に必要となっているのも事実です。地域から草の根の活動を粘り強く、したたかに、あきらめず、誰もが出来る「一歩前」を目指して歩み続けましょう。

２０１９年に香川県で開催予定の第２９回全国総会において元気で再会できることを願い総会アピールとします。

２０１７年６月２６日

日本勤労協第２８回全国総会参加者一同

第　1　分　散　会

- 座　長　　南雲　鋭一（群馬県連）
- 書　記　　宮川邦雄　（群馬県連）
- 助言者　　高崎　　新（日本勤労協会長）
　　藤田　利男（日本勤労協副会長）

◇座長・南雲鋭一　挨拶

◇日本勤労協会長・高崎新

今年はテーマを決めていない。活性化をどう進めていくか、皆さんの知恵を借りていきたい。

1999 年に地方分権法ができ、地方分権の時代と言われたが、現実は財政権を中央が握っている。自民党が握っている。分権でなく中央集権である。福祉は中央では金がかかりすぎるため、地方に移譲として、地方が責任を負っている。中央は法律を作るだけだ。安倍政権は地方分権の言葉さえいわない。

勤労協活動は地域であり、地域活動の砦を作ることが勤労協である。

勤労協の空白地域がたくさんある。ブロック制の意義はその空白をなくすためにあります。地域活動がいないため、民進党も社民党も負けている。民進党は議員党であり、社民党は停滞している。

住みよい地域を作ることはだれも反対しない。住んでいるところをきれいにしたいというの

は人間、生物の本能である。いろんな運動にかかわることが大切であり。ボランティア団体は5万、人数で500万人もいる。しかし、そこにはほとんど労働者はいない。我々が入っていけば、そして活動を共に進める中で指導権を持てる。運動的多数派を形成することが重要。
勤労協は労働者を組織していくことが大切であり、商工業者も農漁業者も組織していかなければならない。

地域づくりは人づくり始まり、人づくりに終わる。いかに後継者を作るかが重要、住民との信頼関係を作っていく。いい面も悪い面も持ち寄って議論をしていくことが大切である。

◇福島市勤労協・須田勝利

一昨年山形総会で約束したことがある。それは7月12日に行われる市議会議員選挙において3単協から3名の候補者を擁立して戦うということを約束した。結果は新人1人を含む3人全員が当選を果たすことができた。本来は議員3名もこの総会に参加を考えていたが議員としての地元を離れることは困難であると判断して今回は参加することができなかった。いずれ参加します。ありがとうございました。

◇長野飯田市勤労協・前田雄二

今勤労協の現実は高齢化とこれに伴う活動の低下の問題である。市民3,000人を対象に市民アンケートを市との共催で実施した。その結果今もとめられものは何かを知ることができた。広報活動としてホームページを作り、若者対策として若者婚活セミナーを開催した。組織改革では60年の歴史がある個人加盟から組織加盟を取り入れた。呼びかけ対象として、退職者連合、現役世代では連合、地協や建設労連、NPO等とし、加盟を実現していきたい。

◇静岡伊豆の国市勤労協・小張紀子

勤労協には1年前に加入しました。埼玉に住んでいましたが9.11、3.11を経験してこれはおかしいと感じていた。こちらに越してきて私と同じように考えている人がいないのかと探していたが、勤労協に出会った。

現状に疑問を持っている方は意外に多いいのではないか、その人たちもどうしていいかわからない状況になっている。勤労協の60年の冊子を見たときに、救われたと思った。

そして全国総会があると聞いて全国に同じ思いを持っている方が沢山いることを知ってうれしく思った。共謀罪問題をふくめて、これはおかしいと思っている人がこんなにいることを多くの人に知らせたいと思う。そこで、勤労協の存在を伝えるためにもっと広告を出したらどうか、新聞広告を出せないか。その広告の中で若者にも話し合ってみませんかと訴えたらどうかと思う。

◇座長・南雲鋭一

只今の発言は、従来は内から外を見た発言が多いい中、外から勤労協を見ての発言であり、

大変いい発言であったと思います。勤労協の広報のあり方にも一石を投じたものと受け止めます。

◇佐賀県勤労協・柳瀬映二

5月27日の総会を行った。現在8単協でやっているが、唐津に単協を作りたいということで、そこには同じ考えを持つ議員もいるので何とか成功させたいということで活動をしている。また、佐賀では大きな2つの問題に直面している、それは玄海原発再稼働問題と佐賀空港にオスプレイを配備するという問題である。玄海原発問題では、本年6月に佐賀地方裁判所は3・4号機の再稼働差し止めを求める仮処分申し立てを却下した。このため、秋から来春にも再稼働となる状況となっている。佐賀県の動きも、4月には県議会において「再稼働容認決議」が採択された。これを受け県知事は県民説明会では圧倒的多くが再稼働に反対する意見であったことを認めつつも県民の生活と命を置き去りにして経済優先の判断で容認したことは許せない。再稼働反対の9団体は、今後も九州ブロックや市民団体とも連携して闘いをすすめていく。

佐賀空港への自衛隊オスプレイ配備問題

3年前から提案があり、自衛隊機オスプレイ17機を2019年から配備したいというものに対して、県は6月議会で受け入れ容認決議を出そうとしている。しかし、県と漁協との間に佐賀空港建設時に「自衛隊との共用はしない」という協定を締結しており、4漁協のうち3漁協は反対を表明している。経済界は経済効果を理由に誘致に向けて取り組んでいる。闘いのカギを握るのは地権者と漁協であり、漁協を中心として2016年・17年に地元反対住民と連携して1500～1800人の規模で反対集会を開催しており、さらに今後も勤労協は黒子役になりながら連携して運動をすすめ、必ずストップをかけるため全力をあげて行く。佐賀に注目を！

◇宮城仙台泉勤労協・石川建治

今回この総会に参加したのも全国の活動を学び、課題解決を図っていきたいためである。高齢化と参加者が限られている現状を打破するため数年かけて議論してきた。そして規約の改姓と活動の見直しを今年の総会に提案した。勤労協は31年目を迎え、仙台市泉区は人口21万6千人で住宅地を中心とした地域での活動です。主な活動として「泉区民ふるさとまつり」には協賛会理事を送り、活動してきたが、雨が降れば財政的にも大きな打撃になることであり、自立をしなくてはということで財政確立を学びたい。組織をどうするかということではバスツアーに代わる「芋煮会」では会員以外の人も集まり希望を持つことができた。今後政策等の勉強会も組織したい。そして行政にも影響力を持てるようになりたい。どうか自主財政確立の方法を教えてください。

◇福岡朝倉地区勤労協連合会・松尾清治

連合会の構成は、朝倉市、朝倉郡内の8単協で構成されている。連合会の活動として交流研修会を毎年開催し26回目になる。23回は集団的自衛権の講演会、24回はグラウンドゴルフ大会、25回は人権学習会とグラウンドゴルフ大会を開催。統一活動として「住みよい朝倉地区のまちーボランティアの日」として毎年統一行動（10月－11月）を設定し、空き缶・ゴミ拾い

をはじめとしたボランティア活動を取り組んでいる。また、日本勤労協・九州勤労協・県連合会の研修集会並びに総会への参加支援を行っている。財政については、毎年各単協や各単組の協力を得て、喜多方ラーメンの上積み販売や独自取り組みの讃岐うどん販売を行っている。そのほか地区労センターからの助成をうけている。各団体との連携の取り組みでは、「9 条・10 万人の会・あさくら」活動、「脱原発・自然エネルギーを求める朝倉住民の会」の取り組みを進めている。今後の課題として、高齢化が進み後継者づくりを大切にしながら仲間を増やしていく。

◇山形県勤労協・和田榮次郎

前回の山形総会のお礼。山形県勤労協は 1986 年に各地区にあった勤労協を統一して結成された。市町村合併などを経て活動が停滞している中、開店休業状態の勤労協もあり、今の課題は勤労協再建に向けた活動である。活動の重点として①戦争法、共謀罪法の廃止を求める活動、反戦、反基地、護憲闘争。②反核、反原発と再稼働に反対、原水禁運動。3.11 以降福島から山形へ多くの人が避難し、6 月現在でも 2000 人が避難を続けている。この避難者に対して福島県は今年の 3 月から支援金を打ち切るという事態に避難者の切実な要望を福島に伝えたいということで山形県から福島県へ伝えるため、自治体同士で話し合いをさせる成果を得ている。大事な運動だと思っている。

県勤労協の大きな取り組みとして、山形県勤労協対抗駅伝大会は、1986 年に国連の「国際平和年」を記念しスタート。県勤労協の誕生も同年であり、天童市にある「県総合運動公園コース」を会場に昨年まで 31 回を数えている。昨年は 11 月 12 日に開催。13 チームが出場選手総数 100 人に上る。この運動を通して勤労協の力を蓄えていく。

◇石川県勤労協・西澤

各県の報告を聞かせていただいた。これからどうしていくのか、どう運動を展開していくかを聞きたいと思って出席した。私として提案したいのは、高齢化社会に向けた大胆な運動を展開することが大事だ。いま高齢者が委縮している、高齢者問題を大きく堂々とした遠慮のない高齢者対策に取り組む必要がある。独居老人をはじめ高齢者生活は大変困難になっている。身近な問題であるがこのような問題への取り組みが大切だと思う。

◇助言者・高崎新

今の問題は重要な課題だ。団塊の世代が高齢者になり、益々高齢者の時代を迎えているが、高齢者の時代であるという認識をもってすすもう、勤労協運動に任期はない、期限はない、一生かけて地域をよくしていこうということが重要である。日本勤労協としても、この観点をしっかりと持って方針を確立していく。高齢者になったからと言って悲観することはない。

◇長野飯田市勤労協・福澤克憲

一言お礼を申し上げたい。私は 25 年間市役所に勤め、1 月末に退職して 4 月 16 日の飯田市議会議員選挙で初当選した。市役所の退職は簡単なものではなかったが、どうしても私たちの世代で未来を作って行きたい、しっかりした地方自治体を作っていきたいとの思いで決断した。地方分権を進めていくためにも、地域と行政が一体となって真の地方創成をめざす運動をすすめる。これからもよろしくお願いしたい。

◇熊本地区勤労協・牛島久雄

4 単協の連合体で 6 月に第 39 回の定期総会を開催した。行政との結び付けも深めようと支持する熊本市議団（市民連合会派）と連携している。主な活動として幹事会と校区代表者会議を開催している。また昔の「フルーツ会員制度」に代わる「熊本の命の水を守ろう会」を継続して取り組んでいる。これは人口 50 万人以上の都市で、上水道を全部地下水で賄っている唯一の存在であり市の施策に強調して取り組んでいる。

秋と冬はミニバレー大会、夏の原水禁デモ行進参加、冬の熊本城マラソンへのボランティア参加など。財政確立は物販と地区労や熊本市から補助を受けてやっている。

この全国総会参加もラーメンの販売益で参加している。

◇福井坂井市勤労協・伊藤進

活動として親子映画会や障害者支援の活動を行っている。親子映画会は毎年行い「戦争ものと漫画」で既に 32 回となっている。また、今年は講演会を予定しており、内容は「振り込み詐欺」と「遺品整理」のテーマで行う。行政との関係では、勤労協顧問の 2 名の議員と「議員と語る会」そして市長などを入れた「行政を語る会」をやっていたが、今後は、提案型の「意見交換会」として進めていく。

◇長野県飯田市勤労協・森本政人

先ほどインターネットから勤労協を知ったという伊豆の国市勤労協の小張さんの話は極めて重要であると思う。安倍政権はおかしい。共謀罪法案の制定が進もうとしている中、自由に発言すらできなくなるような中、勤労協が言論を守ろうとする人たちの中心になれるのではないか。若い人たちへの関心を呼び起こすためにも日本勤労協としての情報発信をこれからどうしていくのか聞かせてもらいたい。

◇日本勤労協副会長・藤田利男　分散会総括

12 名の発言者の皆さん、大変ありがとうございました。これらの意見を学び、参考にしてゆきたいと思います。今日のこの総会の記事はどの新聞にもありません。このことをどう考えるのか、情報発信をどうするのかが課題。石川県では中日新聞を活かしている。新聞をどう活かしていくかを考えていこう。組織のマンネリ、高齢化については宮崎では若い人を役員に入れて活動ができ始めている。若い人の声を行政に伝えていく自治体交渉をすることも大事だ。佐賀では反原発闘争の中で味方をつくることが報告されている。石川勤労協では反原発闘争をやった。闘いは負けることもあるが、味方を増やして頑張っていきたい。また石川県勤労協は「子供が住みやすい地域にしよう」と方針を転換している。福島、長野では自前の議員を誕生させ、増やしている。反対だけの勤労協ではなく自治体運営にも協力して影響力を高めていくことが大切。香川では革新議員が 23 名いる。これは学ぶところが多いい。今回の総会を活かしながら 2 年後の総会まで地域で頑張ってもらいたい。大変ご苦労様でした。

◇座長・南雲鋭一

今まとめをしていただいた。大変充実した分散会であったと思う。これを持ちまして第 1 分散会を閉じます。ありがとうございました。

第 2 分 散 会

- 座長　磨島　昭弘（鹿児島県連）
- 書記　広瀬　一策（大分県連）
- 助言者　橋本　勝六（日本勤労協事務局長
  篠原　　清（日本勤労協幹事）

参加者　　３０名

◇第 2 分散会の座長・魔島昭弘の開会のあいさつの後、日本勤労協事務局長・橋本から全国総会議案の１４～１５ページに提起されている①地域に根差した勤労協活動、②組織の活性化を目指した具体的な行動、について静岡県・清水地区における平和の塔活動の紹介や戦争パネル展などにより戦争の悲惨さなどの教訓を市民に訴える活動などが紹介されて討論に入りました。

◇ 群馬県連・羽野順一

勤労協活動として利根川水系広瀬川の清掃活動に取組んできている。すでに２０年間、年二回（9 月・3 月）勤労協が主催をして開催している。当初は 40～50 名ぐらいであったが、現在は財団の支援、

地元企業の支援､自治会の支援等で500名近くが協力して開催している｡参加者の半数は若い人、企業の指示で参加する人、婦人会や各種団体で子供さんも参加してきています。

清掃日当日には地区選出の国会議員も県議会議員も参加する権威ある清掃活動となっていることなどが報告されました。このような活動を通じ、勤労協運動の理解が深まってきています。

伊勢崎市境勤労協として三階建てのビルを持ち、約900名の会員、役員２５名で構成されている。勤労協会館にはシルバー人材センターが入っているなど画期的な取り組みが報告されました。

◇伊豆の国市勤労協・土屋建次

伊豆の国市は合併して人口 5 万の市となっています｡昭和35年1960年結成された2015年には結成60周年を迎え記念誌を発行してきました｡「地域づくりは人づくり」を基本に活動を進めている。主な活動として会員のバス旅行、市長と語る会、グラウンドゴルフ大会、いちご祭への勤労協参加、囲碁大会などを取組んできています。このような活動を通して組織的連帯を図ってきています。

◇熊本県勤労協・矢野俊雄

勤労協活動として学習会の開催を取組んできています。講師には県議会議員、弁護士、消費生活サンターなどから講師を要請しています。課題としては参加者が限定されてきていることから、ウイングを広げていきたいが難しい。従来の座学型から見学型に転換を図って開催してきている。

具体的には旧炭鉱・万田鉱の見学、阿蘇立野ダム見学と問題点の課題など

今後の方針としては一般市民に呼びかけて行くことや、過去の軍事施設の見学などを通じて平和を考える機会としていきたい。

◇　島原中央勤労協・志岐慶郎

島原半島では勤労協組織を結成中であります。島原半島勤労協連絡会として連携して行きたい。島原市勤労協としては公園の清掃活動･年2回、お寺の清掃活動、バーベキュー大会、歴史散策などを取組んできている。連合が出来ない活動を展開してきている。今後、地域の連帯を深めていきたい。

◇　山形県勤労協・鈴木文夫

県内勤労協組織の現状を報告、

現在、東日本大震災による福島第1原発事故による避難者が山形県内にも多数いることから、政府の帰宅誘導による、自主避難者への補助金停止問題に対応してきた。帰宅誘導といっても子供の健康問題や仕事関係、インフラ未整備など帰宅できない自主

避難者に対する支援を山形県に申し入れを行い、補助金支給など交渉している。

◇ 会津若松勤労協・五十嵐美文

1981 年勤労協組織の再建を図ってきた。現在、具体的活動は対市要望交渉を展開中である。水道料金引上げ審議会に一般公募として参加している。

市側（水道企業会計）より 21.66%値上げ提案に対する取り組み報告がされた。

値上げ要因は工場縮小により使用料年間 10 億円の大幅減額、この対応を人件費減額と大幅料金の引上げとなっているが、生活困窮者や高齢者世帯などへの配慮を交渉中である。しかし、専門的知識不足や公営企業法や水道法などの認識が充分でなく、水道法は出来るだけ安く市民に提供、企業会計法では水道料金は料金収入で決まる。この二法の矛盾がそもそも問題であり法改正が必要であると報告された。

◇ 新潟・西蒲（にしかん）梨本重雄

年 10 万円を市から助成を受けている。20 年ほど前に静岡県掛川市勤労協を視察し大変勉強となった。各種とりくみでマスコミの活用は重要である。勤労協などの市民団体の活動は取り扱ってくれる。しかし、労働戦線の変化、市町村合併などから勤労協組織が取り残されてしまっている。

◇　福島市勤労協・藤岡郁夫

２０２５年問題は勤労協として重要な課題として位置付けるべきと考える。福島市勤労協は医療生協運動と連携をとった運動を展開している。医療生協は 20.000 人の会員を有し、労災･職業病などを取組んでいる。介護保険などのサービスについて地域包括ケアの方向性や介護のあり方などが課題となってくる。

◇ 座長より、脱原発・辺野古・改憲などについての意見集約をしたいとの提起がされ、鹿児島川内原発の 1 号機･2 号機が建設 40 年と間近となってきている､廃炉か増設かが問われてきている。また核廃棄物の処分場建設問題も南大隅町などがうわさとして取りざたされている。などを提起して意見を求めたが閉会時間が迫ったため意見を締めくくった。

◇ 橋本事務局長より浜岡原発問題などにも触れての集約があり

辺野古新基地建設阻止の闘い、憲法 9 条改憲反対、原発再稼動反対など当面の重要な闘いが展開されていくが、社民党の政策が勤労協と近いことから支持し協力関係を保っていきたい。しかし、勤労協組織はそれぞれの地域で独自の方針や永年の経緯もあるので活動を縛るような事はない。各県における状況を活かし各種活動を取り組

むこととしたいとの考えが示され、第２分散会を終了しました。

第　３　分　散　会

●座　長　　茂木　憲夫（福島県連）
●書　記　　大塚　祐子（福島県連）
●助言者　　宇津井　賢一（日本勤労協副会長）
　　清水　可晴（日本勤労協事務局次長）

◇座長・茂木憲夫　挨拶

第３分散会の座長を務めます福島県連の茂木憲夫です。本日参加の県は１４県です。それぞれの立場からご発言をお願いします。役員から自己紹介と問題提起をお願いします。

◇日本勤労協挨拶（宇津井賢一副会長）

今年から分科会を分散会に変更しました。少しでも多くの活動や経験を発表してもらいたいからです。

◇福井県坂井市勤労協・川崎周一

単協が二つしかなく、あとは平和センターの事務局が県連の事務局を担っている。以前は８・９ぐらいあったが、なくなった原因は労組の活動家が退職したのと議員がいなくなった。私のところはすべて個人会員。労組の活動家ではない。

活動としては、①市長と語る会（行政と語る会）、②親子映画会と施設の子どもたちとのボーリング大会、③冬は施設の子どもたちと合同スキー教室（県よりバス代助成）、④会員の日帰り研修旅行などを行っている。

何といっても行政合併により単協が減少し、助成金の減額で財政上も活動が厳しいのが現状。

◇福島県双葉勤労協・猪狩匡資（資料有）

福島第一原発事故の地元で、事故の際には全国的なカンパの取り組みありがとうございました。会員は４０名で３単協だったが、原発事故によりすべての会員が避難を余儀なくされた。事故から６年経ち、それぞれが避難先で新たな生活を始めており、現在双葉地方に戻った会員は２名。会の存続も危うく、役員も避難先は青森から茨城、そして県内各地に点在している状況で活動が休止状態だ。

荒廃した住宅の補修は困難で、医療施設・高齢者福祉施設の不足やスーパーなど生活に欠かせない施設が少ない。また、すでに避難先で新たな生活になれたことや原発・放射能への不安を抱えて子育て世代が帰還

をあきらめた。深刻なことは、事故前は三世代同居が当たり前だったが、高齢者と子育て世代の意識の違いが出てきて高齢者だけが故郷に戻ることが多く、家族がバラバラになった。

８月に勤労協会員が楢葉町議選に現職で立候補。①第二原発即時廃炉、②医療と福祉の充実、③避難した人が戻るか戻らないかに拘らず、生活再建ができるよう国と東電に求める、などを公約に当選を目指している。

◇静岡県三島市勤労協・仁杉秀夫

１９６５年三島・沼津コンビナート反対闘争があり、住民活動の中で三つほどあった勤労協をまとめて三島市連合勤労協ができて５０年となる。この間、自然保護運動で「三島里山を守ろう」と竹林整備を進めてきた。しかし、高齢化の波と労組組織の減少により加入者が減少。労組活動の縮小で勤労協も縮小。現在、個人加入・地域会員。夏祭り開催で女性会員の増加を願っている。

活動の課題が少なく、５０年の歴史を絶やしたくない。市の助成も半減し、歴史と伝統を守るために女性会員の増加が課題。

◇石川県羽咋郡市勤労協・多名賀哲也

志賀原発があり双葉の石丸さんと情報交換をしている。安倍政権は原子力帝国になっている。子どもたちの被ばくを許さないということも空洞化している。今の避難解除に疑問を持っている。チェルノブイリでも考えられない解除方針だ。

◇石川県志賀勤労協・比良保

地元議員で活動している。志賀原発は止まっているが、典型的な活断層の上に立っている。調査・ボーリングをしているが、すでに結論は出ている。

◇山形県勤労協・加藤孝二

前回の山形総会は大変お世話になりました。山形総会を手伝って、勤労協役員として今回参加することとなった。

山形県に避難している原発事故避難者数千人の仮設住宅の助成打ち切りに対し、4団体で山形県に避難者の住宅援助延長を要請した。本来は福島県がやるべきものであるので、山形県から福島県へ行政サイドで依頼するよう要請を行った。

一昨年「戦争法」が成立したことにより、毎月１９日に集会・学習会活動を平和センターなどと一緒に実施している。

◇宮城県仙台市若林勤労協・相沢和紀

１１の組織があるが組織労働者が少なく、その中での活動。３．１１震災後、８万人の人口増。これは宮城１４市町村と福島からの避難者が仙台市に集中した。安全な場所に住みたいとの希望で、三つの小学校が統廃合でなくなる。

放射能は福島だけではなく、汚染された稲・わら・牧草はいまだ受け入れ自治体がない。原発事故は福島だけでなく、

宮城・岩手にも大きな影響をもたらしているこの現状を認識してもらいたい。

◇群馬県安中市松井田勤労協・武井勇三

縦割りの組織。市町村合併により勤労協も合併し、活動はマンネリ化して停滞。それではだめなので労働組合による縦割りではなく、個人加入へ変化させて運動を構築してきた。

福利厚生活動として潮干狩りなど、文化活動に重点を置いて活動している。

◇長野県飯田市勤労協・長田昇

ＪＲ東海の海岸美化活動を高校生と一緒に行い、ここ２年活動中止だったが再開した。駅のトイレ掃除を活動として行い、市より助成金を受けた。

年１回のバレーボール大会で、全員が会員ではないが４０名から５０名の参加者のうち１～２名の新入会員がある。９月に駐輪場の塗装を行う予定で、住民に気持ちよく使用してもらえればと取り組んでいる。

１０年経過して、前向きに活動している。

◇新潟県西蒲労連・おとなりさんネットワーク・中田武（資料有）

昭和３３年の結成で、新潟市からの補助金と会費で運営している。幹事会は毎月開催。主な活動は「まちづくり運動」「親睦運動」「たすけあい運動」の三つ。

まちづくり運動として空き缶ひろいや花いっぱい運動、地元商工会の多加良まつりに参加などを行っている。また、親睦運動として地引網大会を労働金庫と共催で行い、たすけあい運動として無料法律相談会を実施し、熊本・大分大震災のカンパ取り組みも行った。

課題としては、参加者が決まっており、財政難などでいろいろな活動が困難になっている。

◇長野県小布施町勤労協・斉藤英司

平成２８年に第６４回総会を行い、４４名が参加した。市から助成があるが、会員がなかなか増えない。総評がなくなり労働者意識がなく、政党支持が嫌で１４・５年前に会員が激減した。今、活動の中で少しずつ会員が増加してきた。

小学生の絵画展の開催や、親子魚つかみ取りを実施している。

◇長野県諏訪勤労協・三井正二

活動の衰退傾向に危機感を持っている。地域で課題を持って活動してきたが、いまは会員８名となっている。

連合労働運動の中で、労働組合は地域活動から手を引くようにと指示があり、地域とのつながりが薄くなってきた。勤労協として行政とのつながりもあり、助成金もあったので地域からの活動が可能だった。連合労働運動によりそのつながりも絶た

れてきた。地域から労働組合へも積極的に働きかけて会員を増やしていきたい。

◇長崎県長崎地区勤労協・加世田和志

長崎地区労が主体となって勤労協運動を行っている。長崎地区労から各単協に助成金が出ており、

年１回の総会とボーリング大会なども開催している。市の予算編成に地区労が要求書を出すときに一緒に勤労協としても要求書を出して活動している。また、８．９原爆投下の日に行われる反核座り込みに勤労協の代表が参加している。そのほか、平和問題の学習会や教育を語る会、次水戸商店会との夏祭りなどの活動も行っている。

この間、２年前に平和センターの事務局長が県議選に立候補するということで、勤労協として後援会を結成して当選させてきている。

◇栃木県宇都宮雀宮勤労協・渡辺公一

会員は個人加盟の３７名で、無料法律・年金相談会、学習会を開催している。ごみ焼却場の建設にあたって現地調査を行ってきた。活動資金のためのフリーマーケット開催など、組織が少ない中で苦労して活動している。

また、役員が高齢化しているので、若返りが課題となっている。

◇まとめ・日本勤労協・宇津井賢一副会長

各地域での活動を、そこから得た教訓や具体的な触れ合いをどんなことでも日本勤労協へ報告・投稿をお願いしたい。ネットワークを通して全国へ発信していきたい。みんなで一緒に学びあいたいと思いますので、よろしくお願い致します。

活動・財政方針小委員会報告　── 特別報告と並行して開催

◇　　出席者　　12 県連
◇　　座　長　　宇津井賢一副会長
◇　　方針提案と全体総会報告　橋本勝六事務局長

第２８回全国総会財政小委員会は全体総会の特別報告と平行して開催されました。

財政小委員会は各県連代表者及び日本勤労協から宇津井賢一副会長と橋本勝六事務局長及び宮下正一会計監査、八巻利行会計監査が出席して開催しました。座長は宇津井賢一副会長のあいさつで始まり、橋本事務局長から総会第 2 号議案 2015 年～2016 年会計決算報告及び物資販売事業会計報告について報告されました。会費収入及び物資販売事業収入については、各県連の協力により全ての収入目標に対し完納となっていることが報告され、その謝礼と会計報告が提案されました。

引き続き宮下正一氏（東海北陸ブロック）より会計監査報告を受けて審議に入りました。特に報告すべき事柄もなく拍手で承認されました。

２０１７年～２０１８年予算編成方針及び第3号方針の物資販売事業計画の提案がなされ、日本勤労協組織の運営上財政的には最低限度の運営費確保の立場から、概ね前年度並みの収入を確保して行く方針が述べられました。しかし各県連での組織の実態からブロックから強く提案された２県蓮については会費収入を若干修正することとしました。

意見については、諸活動について勤労協に対する協力を頂き運動を前進するため、総会資料などを関係方面に配布し運動を理解して頂くよう努力したらどうか、広島県連・宮崎県連についても会費納入が得られる努力をしてほしい。全体の県連が組織的には厳しい環境に置かれている。知恵を出し合って頑張っていきたいなどの意見が出され予算編成方針及び第３号議案の物資販売事業方針は白州で承認されました。

伊豆日日新聞　平成29年(2017年)6月27日（火曜日）

日本勤労協

「一歩前」目指し歩く

全伊豆の総国会で宇津井新会長を選出

あいさつに立つ宇津井新会長（中）＝伊豆の国市のホテル・サンバレー富士見

日本勤労協議会運合会（勤労協）は25、26の両日、伊豆の国市のホテル・サンバレー富士見で第28回全国総会を開いた。新会長に東北ブロックの宇津井賢一さん（宮城県連）を選出した。

全国各地の会長ら165人が出席。初日は議案提案や交流会、2日目に議案の採択を行った。県勤労協の堀内武治会長は歓迎のあいさつと併せ、「安倍首公政権の強権政治は断じて容認できない。私たちは『政治の改革』を求めて地道に努力し続け、したたかに、諦めず、誰もができる『一歩前』を目指して歩き続けましょう」とする総会アピールを承認し、閉会した。

次回は2年後に香川県で開かれる。

正、総会は平和や格差是の根の活動を粘り強く環境保全活動などを念頭に「地域から草頑張っていきたい」と述べた。

役員改選により、会長含め8人中3人が新任となった。宇津井新会長は「前会長の高崎さんは結成当時から携わってきた。勤労協はみんなでやっていく組織。教えを引き継ぎなければならない」と語った。

◆今号では、全国総会の写真をできるだけたくさん掲載させていただきました。

◆分散会の発言者写真については、発言にあうように写真を配したつもりですが、当方で皆様全員のお顔を存じ上げてないため、もし間違いなどがありましたら、お許ください。（編集者・事務局）

ろうきん
「お金を引出す時の手数料って、なんかもったいない！」
けっこう使えるだから おすすめ！
わかる！わかる！
でも、ろうきんなら
ATMの引出し手数料
0円だよ。
ろうきんのキャッシュカードなら
セブン銀行
イオン銀行
E net
ATM
VIEW ALTTE
のATM手数料が0円
さらに！
全国の銀行・ゆうちょ銀行・信用金庫などで使えて
ATMお引出し手数料を即時
キャッシュバック！

ZENROSAI NEWS
支えあうことの安心を、
さらに多くの皆さまへ。
一人の力では難しいことも、みんなの力を合わせればきっとできる。
一人一人が手を差し伸べ、みんなで心を合わせたら、
それは確かな今日と、健やかな未来へとつながっていく。
全労済は、支えあう心をつなげ、みんなの笑顔をつくる保障の生活協同組合。
時代にあった、保障のカタチを提供していくことで、
支えあう安心をこれからも、さらに広げていきます。
全労済の住まいる共済
新火災共済・新自然災害共済
こくみん共済
新総合医療共済
新せいめい共済
ねんきん共済
マイカー共済
自賠責共済
団体生命共済
交通災害共済
新団体年金共済
セット移行共済
全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。
保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会